

【お知らせ：2015年11月28日】

**女子大学生が、大佛次郎記念館の活性化に取り組んでいる
「大佛次郎記念館活性化プロジェクト（ハコいりムスメプロジェクト）」のイベントとして
「本をならべてモザイクアート！」を横浜市のみなとみらい駅コンコースで
2015年11月28日に実施！**

**モザイクに利用された文庫本の一部をブックオフオンラインが買い取り
横浜市が運営する「よこはま協働の森基金」に寄付**

「ヨコハマハコいりムスメプロジェクト」とは、女子大学生が社会課題の解決に取り組むプロジェクトを企画している NPO 法人ハナラボと、公益財団法人横浜市芸術文化振興財団、横浜市の 3 者が連携し、港の見える丘公園にある文学館「大佛次郎記念館」を活性化するために立ち上げられたものです。

「本をならべてモザイクアート」は、このプロジェクト活動の一環として実施されたもので、横浜生まれで横浜をこよなく愛した作家・大佛次郎に深いかわりのある「本」を使い、活動賛同者から寄贈された文庫本 4797 冊(最終集計)の中から約 3000 冊を使用して約 6m×8m のモザイクアートを制作しました。



モザイクアート「大佛夫妻と猫」

当日は、プロジェクトメンバーの他、呼びかけに集まった参加者総勢33人により制作され、見事に「大佛夫妻と愛猫の微笑ましい絵」が完成。イベントを見物していた方からは「近くでは、本を並べてあるだけにしか見えない作品が、遠くから見たり、レンズを通すことによって絵が浮きあがってくる不思議な感覚を楽しむことができた」と好評でした。

イベント終了後は、参加者が気に入った文庫本を持ち帰る「本との出会い」の機会も設けられ、イベント目的の大佛次郎と本と人との繋がりを実現。残った文庫本は、ブックオフオンラインが買取り、買取金額は大佛次郎がナショナル・トラスト運動（自然環境保護）を日本に初めて紹介したことから、横浜市が運営している「よこはま協働の森基金」に寄付をいたします。

【NPO 法人ハナラボについて】

社会課題の解決を通して、女子大生のリーダーシップと創造力を育む事業に取り組んでいます。大佛次郎記念館活性化のために学生が考えた企画の一つ「本をならべてモザイクアート」は、次の活動を目的としています。

1. 文学館である大佛次郎記念館をより多くの人々に広める。

横浜市内に住んでいても、記念館を知らない人々に、記念館の存在や魅力を伝え、実際に足を運んで、記念館の魅力を体感してもらう。

2. 本を読むためのきっかけをつくる

普段本を読まない人々（とくに10代後半から20代の若い世代）に「世界最大級のモザイクアートの制作」を目的としたイベントに参加してもらうことで、イベントを通じて、多種多様な本に触れ、気になる本に出会える機会をつくり、本に興味をもってもらう。

3. 人と人を繋げる

モザイクアート製作を通して、学校、職業、趣味、年齢などが違い、普段の生活では一緒にならないような人々が集まり、一丸となって活動することで、地域の団結力を高め、交流を深める。

【大佛次郎記念館について】

港の見える丘公園の展望台の南側に広がる沈床花壇の奥にアーチ型の屋根と赤レンガ色の外観が一際目立つ館。横浜ゆかりの作家「大佛次郎」の業績と生涯を様々な資料で紹介しています。

大佛次郎は横浜で生まれ、そして横浜を最も多く描いた作家です。中でも「霧笛」「幻燈」は開化期の横浜を愛惜をこめて描いた名作として今も多くの人々を魅了し続けています。

代表作には「パリ燃ゆ」「天皇の世紀」「帰郷」「赤穂浪士」などがあり、「鞍馬天狗」の作者としても親しまれています。また館内には、愛猫家であった大佛次郎が所蔵していた猫の置物も、多数展示されています。

■ 本で様々な寄付が出来るブックオフオンラインの買取サービスに関する詳細はこちら

http://www.bookoffonline.co.jp/files/csr/csrsprt_outline.html